

千曲市農業再生協議会（長野県千曲市）

組織の概要

- H15年度の1市2町の合併により、H16年2月に設立
- 千曲市農業委員会長が会長となり、県、市、JA、土地改良区などの関係機関や農業者など22名の委員と11名の幹事、5名の事務局で構成。

生産概要

- 【市内作付面積】 水稲：404ha、麦：90ha、大豆：69ha、そば：20ha（R7年）
- 市内の複数箇所でブロックローテーション実施。特に市内でも有数の優良耕地である屋代沖地区では、圃場整備がされた耕地において、水系毎に3年に1回のブロックローテーションを行い、水稲と麦・大豆・そばの安定的な生産に取り組んでいる。



ブロックローテーションによる麦ほ場

取組のポイント

<需要に応じた生産の徹底>

- 従前からブロックローテーションによる麦・大豆生産に取り組んできたが、実需者等からの国産需要に十分応えられていなかった。このため、関係機関と連携し、情報交換を行いながら、生産量の確保・増加に取り組んだ。

<適正規模の機械導入による面積の拡大>

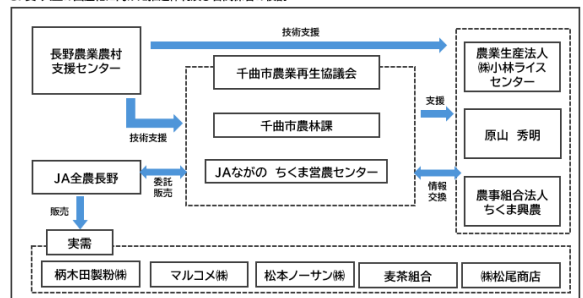
- トラクター、コンバイン、シーダー等の適正規模の機械に機能向上・新規導入し、作業の効率化を図った。これにより適期作業が可能となり、作付面積の拡大につなげた。

<水系別に圃地化したブロックローテーションによる排水対策の取組>

- 屋代沖地区において水系別に圃場を圃地化・連担した営農を実施し、排水対策を講じやすい体制を構築することで、排水性の改善を通じた生産性向上を図った。

○国産化プランより抜粋（各機関の役割）

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び関係者の役割



取組成果

<適期作業による面積の増加>

- 適正規模の機械導入により適期内の作業実施率が向上した結果、作付面積を拡大できた。また、排水性の向上によって安定生産にも繋がっている。

<適正規模の機械による作業効率化>

- 事業取組法人の対象作業への従事時間が機械導入前に比較して約17%削減。

○麦・大豆の作付面積

品目	令和5年度 作付面積 (ha)	令和6年度 作付面積 (ha)	令和9年度 作付面積 (ha) ※目標年度
小麦	38.4	41.7	42.2
大麦	33.9	28.9 (ブロックローテーション関係で減)	36.0
大豆	33.6	38.7	37.1

○取組法人の作業従事時間

作業	令和5年度 (h)	令和6年度 (h)
播種・収穫	1143.5	952